

内容

- 1 修正したリーフレットについて
- 2 「努力を要する」状況（C）の子どもへの支援について
- 3 第17次共同研究発表会について

1 修正したリーフレットについて

- ①第1回共同研究推進委員会での協議内容が反映されているか
- ②さらに改善（変更・差し替え）すべき点はないか

→前回指摘された、「色の関係による見にくさ」は改善された。

→間違っている部分があるので、それらを修正する。

→画像が見つらい部分があるが、最終完成版は、もう少し改善されるはずだ。

2 「努力を要する」状況（C）の子どもへの支援について

昨年度の協議では、「どうなったら『A』になるのか」という「B→A」の基準に関する内容が多かった。そのため、今回の協議では、「C」と評価される子どもに、どのような手立てを講じれば良いか、また、評価の基準（ループリック）をどのように設定すれば良いか、とすることを協議した。

参加した推進委員が、それぞれの評価基準の実践を紹介し、その中で、特に「C評価の生徒に対する手立て」について、意見交流をした。

それぞれの手立てに共通しているのは、

- 教師からの手立てだけでなく、他の児童生徒との交流が大切である。
- 交流方法も、付箋紙を使ったり、ICTを使ったり、さまざまな方法が考えられる。
- Cと評価される子どもにも、さまざまな要因がある。その子の特性を理解することが重要。

また、具体例で、小4の「絵画の鑑賞」の内容で、鑑賞ポイントに着目した記述が上手くできず、「C」となった児童の多くは、そもそも鑑賞に意欲が持てない場合が多い。その反面、次の学習の「絵画を描く」という内容には取り組んでいた。授業の中での支援はもちろんだが、意欲喚起が一番大切で、単元の見通しをもって、児童生徒の興味関心を大切にした指導計画が重要である。

また、交流の中で、教育大学札幌の芳賀先生から、「『規準』と『基準』が混在している例が見られる」との指摘があった。

「～することができる」は評価「規準」であり、ループリックではない。大きな評価規準

があって、それをもとに、より具体的な評価基準を設定しなければならない。また、評価基準を示す際には、子どもたちの納得が必要。そのため、境界をはっきりさせることが重要である。何がどれくらいできたら A なのか、または、できなかったから C なのか。どうだったらできていて、どうだったらできていないかをはっきりする。

境界をはっきりさせるためには、具体的な数値化が子どもがイメージしやすく、納得しやすい評価となる。例えば、「1つしかできなかったら C」、「3つ以上できたら B」、などとなっている方が、分かりやすい。

また、基準の中に、いくつもの観点があると評価することが難しくなる。「〇〇があり、△△があり、□□ができています」みたいな表記は×。とにかく、評価者が実感を持てるように作るべきである。

そのほかに、評価は「加点方式」が望ましい。子どものモチベーションにつながる。また、「これをやれば A になる」ということを示した方が、子どもの意欲喚起につながる。

3 第17次共同研究発表会について

令和4年度は、全教連研究協議会（北海道大会）があり、道研連研究発表大会を兼ねて実施することから、これまでの成果を発表する機会がない状況である。そのため、9月2日（金）に Zoom による研究発表の機会を確保した。その中で、2機関による実践発表が行われるが、「後志」と「留萌」が担当することとなった。

【説明・協議1】第17次共同研究3年次の方向性について	
＜3年次＞推進スケジュール（案）	
5月13日（金）	【第1回 共同研究推進委員会】
7月1日（金）	【第2回 共同研究推進委員会】 オンライン ・リーフレットの完成 ・協議…（仮）「努力を要する」状況（C）の子どもへの支援 ・第17次共同研究発表会に向けての準備
7～8月	・共同研究推進委員と発表会の打合せ
9月2日（金）	【第17次共同研究発表会】 オンライン ※放課後45分程度 ・共同研究推進委員による発表会
9～10月	第18次共同研究の研究テーマに係るアンケート実施 （加盟機関の全所員対象予定） ※クラウドサービスを活用
11月21日（月）	【第3回 共同研究推進委員会】 オンライン ・第18次共同研究の内容の検討
2月8日（水）	【連盟委員会】第18次共同研究の概要 提案

最後をお願い

- ・「指導案バンク」の周知をお願いしたい。
- ・7月29日（金）の夏季所員研集会への参加を呼びかけて欲しい。

第3回共同研究推進委員会は、11月21日（月）15：00～16：30に Zoom にて実施される。